

東アジアにおける母娘間の親密性：異性
愛・ジェンダー・家族規範の交渉の質的分析

KHOR, Diana / K h o r, Y. T. D i a n a

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

科学研究費助成事業 研究成果報告書

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

6

(発行年 / Year)

2019-06-17

令和 元年 6 月 17 日現在

機関番号：32675

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2014～2018

課題番号：26285120

研究課題名（和文）東アジアにおける母娘間の親密性 異性愛・ジェンダー・家族規範の交渉の質的分析

研究課題名（英文）Practices of Intimacy in Mother-daughter Relationships: Qualitative Research on Negotiations of Heteronormativity, Gender Norms and Family Norms

研究代表者

Khor Y. T. Diana (Khor, Diana)

法政大学・グローバル教養学部・教授

研究者番号：00318594

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 7,400,000 円

研究成果の概要（和文）： 家族における親密性の実践ならびにジェンダー的異性愛規範が再生産・変容されるプロセスを分析するため、香港と日本において成人期の異性愛と非異性愛の娘、異性愛の娘の母、非異性愛の娘の母のグループ・ディスカッションとインタビューを実施した。その結果、母・妻であることが母娘の一体感の基盤とはなっておらず、レズビアンが母親に受け入れられると母との親密性が高まる、教育や仕事の達成は母の誇りとなるが異性愛規範から外れることの埋め合わせにはならない、女性パートナーは母の不安を軽減するが異性配偶者と同等には扱われない、近しさに関わらず、母をケアすることへの義務感を持つことが示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究で行なったフォーカス・グループ・ディスカッションおよびインタビューに異性愛と非異性愛の娘、異性愛の娘をもつ母、非異性愛の娘をもつ母を含めたこと、非異性愛の娘については「カミングアウト」のみに焦点を当てず、関係全般に注目したこと、母娘関係の文脈におけるパートナー・夫の役割についてもたずねたこと、そして日本と香港をフィールドに調査を進めたことによって、家族研究における成人期の母娘関係ならびに非異性愛者を含む家族についての領域に新たな視点と今後の検討課題を見出すことができた。

研究成果の概要（英文）：We conducted focus group discussions and interviews with adult heterosexual and non-heterosexual daughters, and mothers of such daughters in Hong Kong and Japan to explore how familial intimacy is practiced, and if gendered heterosexual norms are reproduced or challenged. Motherhood/wifehood is not revealed to be a basis of mother-daughter identification or intimacy; lesbian-identification, if accepted, could enhance intimacy. However, there are clear signs of the enforcement of heteronormativity. While the mother might be proud of the daughter's achievements, they do not offset her gender/sexual transgressions. Likewise, while a female partner could allay the mother's worry about the daughter's future, her status in the family is not equivalent to that of a sibling's heterosexual spouse. Whether close or not, daughters show a strong sense of obligation towards the mother, especially among the less well-to-do, and the concept of 'care' is core to how they define intimacy.

研究分野：社会学

キーワード： 香港の家族 日本の家族 クィア研究 母娘関係 レズビアン・バイセクシュアル女性 同性愛・両性愛 ヘテロノーマティヴィティ 異性愛規範

1. 研究開始当初の背景

本研究のテーマである成人期の母娘関係は、家族研究における「世代間関係」の領域に位置づけられる。質問紙調査に基づく量的研究では、母娘間の「むすびつき」(構造、交流、愛情、機能、価値観、規範)(Roberts et al. 1991)や、関わり・関係性(情緒的・日常的・金銭的支援、ストレス・対立・アンビバレンス、依存・支配、愛着等)の様々な側面がとらえられてきた(Pillemer & Suito 2002; Lin et al. 2003; Schwarz 2006; 水野-島谷 2002)。質的研究では、Jackson & Ho (2012)が香港とイギリスの母娘関係を分析し、イギリスでは情緒面と秘密の共有が、香港では実践面と伴侶面が、「親しさ」(intimacy)の表れとして重視されていることを示した。また、Evans(2008)は中国の母娘関係の描写に、「コミュニケーション」や「親密」という言葉が、特に娘側で頻繁に使われることを見いだした。

ジェンダーに着目した研究では、ケア労働を強いられている女性がケアを「喜び」と感じる根底には、ジェンダー権力構造があると指摘されている(Willson et al. 2003)。アジアの文脈では、娘には金銭的支援ではなくケア労働が期待されること(Lin et al. 2003)、親は老後のケアを息子より娘に望む傾向があること(Rindfuss et al. 1992)、娘の老親扶養志向は情緒的親密さと性別分業規範に支えられていること(中西 2007)などが指摘されてきた。母娘間での役割の共有に関しては、母親が娘のキャリア志向に影響を与えること(塩崎他 1993)や、妻や母という役割の共有が、母娘の価値の一致や親密度を高める(春日井 1996)といった知見が得られている。ただしこれらの研究では、キャリア経験を除けば、結婚や出産という異性愛を前提とした役割の共有の検討に限られており、ジェンダー不平等や「女性」アイデンティティに基づく母娘の経験の共有を考慮した分析はなされていなかった。

非異性愛の子どもを含む家族研究に注目すると、日本の文脈においては非異性愛者にとって血縁家族が重要であること(三部 2012)、母親が専業主婦か否かでカミングアウトへの反応が異なること(Sambe 2013)、子のカミングアウトに伴い、母親が積極的に母親役割を担うことで、新しい「家族」と「母親役割」を創造すること(元山 2013)などが示されてきた。これらの研究は全般にカミングアウトをめぐる家族関係の分析に限定されている。非異性愛家族の研究が蓄積されている欧米においても、エッセイ集等は散見するが(Perlman 2012; Rafkin 1987)、レズビアンと娘と母との関係をテーマにした研究においてさえも、10~20代の娘からカミングアウトを受けた母親に焦点を当てており(Davis 2009)、支援関係も含めた成人期の母娘関係の全体像は明らかにされていない。

本研究は、(1)母娘関係の研究では異性愛が前提とされている、(2)非異性愛娘を含む家族研究ではカミングアウトに関するもののみに焦点が当てられている、(3)従来の母娘関係の研究と非異性愛者を含む家族関係の研究との間において対話が行われていない、という学術的背景のもとで開始された。

2. 研究の目的

本研究の目的は、日本を含む東アジアの文脈での成人期母娘関係における「親密性の実践」を、異性愛規範、ジェンダー、家族のあり方に注目しながら質的に分析し、母娘関係の研究および親密性概念の検討に新たな視点を創出することである。上記「1」で言及した先行研究において抜け落ちていた点に目を向け、日本と香港において、異性愛娘および非異性愛娘と母親との関係全般における「親密性の実践」(Jamieson 2011)を描写し分析する。

ここでは、人口学的観点から、結婚・出産をするか否かの瀬戸際にある世代の娘およびその世代の娘をもつ母親を対象とする。「つながり」や支援を量的にとらえた研究結果(例 Roberts et al. 1991)も参考にしつつ、母娘関係における「親密性の実践」(Jamieson 2011)すなわち両者の関係において親近感やそれぞれが互いに気かけ、特別な存在であるという感覚を可能とし、それを作り出し継続するプロセスをみていく。母娘が親密であること

を前提とせず、距離感を作る実践とアンビバレンスの交渉(田淵 2013)にも注目する。また、クィア・スタディーズの視点から、異性愛の娘を基準として非異性愛の娘がどのように異なるかという比較に特化するのではなく、(性的指向に関わらず)母娘関係において異性愛規範性がどのように作用するのか(Oswald et al. 2009)を検討する。

3. 研究の方法

本研究では、東アジアに属する日本と香港において「娘」・「母」を生きる女性から直接、母娘関係の経験や考えをグループおよび個別に聴き取って、その内容を分析する質的アプローチを採用する。

(1) 先行研究および既存の関連情報の整理と分析：まず、聴き取りを行う内容について検討するために、欧米および日本をはじめとするアジアにおける母娘関係の先行研究を整理し、研究動向を分析した。また、日本に関しては、近年の大衆向けの雑誌における母娘関係についての特集記事や母娘関係を扱う一般書、非異性愛女性に関しては、メンバーが過去に関わったインタビュー調査のテキストや、レズビアン・バイセクシュアル女性向けの雑誌『ANISE』や、『れ組通信』、『LABRYS』、『LABRYS Dash』などのミニコミ誌、レズビアン・バイセクシュアル女性による書籍等で言及されている母との関係についての記述を概観した。

(2) フォーカス・グループ・ディスカッションの実施：日本と香港において、女性が母・娘として、「母娘関係」をどのように経験し、その関係をどのように認識しているのか、その関係性を日常的にどのように交渉しているのかをとらえるために、まず、フォーカス・グループ・ディスカッション(以下、FGD)を行なった。

FGDとは、研究テーマに関する事柄について焦点を定めたディスカッションを行う目的で、属性や他の特徴が明確に定義された集団に属する人を集め、研究者の関心事項に対する参加者の気持ち、態度、考え方などを引き出すデータ収集法である。ディスカッションは、研究者側が準備したガイドラインに沿って、モデレーターによって進められる。FGDのモデレーターは、どの参加者もまんべんなく話し、参加者同士の自発的な対話が促されるように配慮する役割をもつ(千年・阿部 2000)。本研究においては、各グループの人数は、先行研究で最適であるとされている人数(4人)を参考とし(千年・阿部 2000)、当日のキャンセル等も見込んで5人を目安として設定した。

母娘関係はライフステージによって変化すると思われるが、本研究の対象は社会的に結婚や出産の期待が高まる20代後半から、子が成人する時期に相当する50歳前後までの娘と、その年齢層の娘を持つ母、とした。「娘」についてはレズビアン・バイセクシュアルであると認識している女性(「非異性愛娘」)とそれ以外の女性(「異性愛娘」)の2グループ、「母親」については、非異性愛の娘を持つ女性(非異性愛娘の母)と異性愛の娘を持つ女性(異性愛娘の母)の2つのグループを設定し、それぞれに該当する人を研究メンバーのつてによって、スノーボール式で協力者を集めた(表1の は例外)。

実施に先立ち、香港の研究チーム Lucetta Kam 氏、Day Wong 氏と、日本の研究チーム(コー、釜野、千年、斧出)との間で、会議やメールでのやりとりを経て、FGDでたずねる質問のリストを協議した。またFGDへの参加者に事前にたずねる基本属性および家族やジェンダーに関する意識を含む事前調査票を英語、日本語、広東語で作成した。

香港においては、2014年夏から2015年秋の間に6組、日本(東京)では、2015年1、2月に4組、2017年2、3月に6組実施した。日本の2017年調査では、母親および娘の学歴や有配偶か否かによる違いも見るためにグループを細分化した。各FGDの所要時間は2時間程度であった。参加者には事前送付または当日会場で、事前調査票の記入を依頼した。

FGDで取り上げた内容は、次のとおりである：母娘関係に関する規範と実践 [a 物理的な距離 (Physical closeness)の経験と考え、b 一緒に行動する・一緒にいることについての経験と考え、c 気持ちの上での親密性 (Emotional closeness)、d 日常生活での助け合い、e

(娘・母)あなたに対する期待] 母と娘の理想的な関係、パートナー・夫の役割、母・娘との価値観の比較、ライフステージと母娘関係の変化、現在の関係の評価など。

表1 本研究で実施したフォーカス・グループ・ディスカッションの一覧

フィールド実施時期	香港 2014 年 8 月～2015 年 11 月	日本 2015 年 1 月～2 月 2017 年 2 月～3 月※
異性愛娘	・ 28～39 歳 (5 名) ・ 40～50 歳 (5 名)	・ 28～41 歳 (4 名) ・ 40～50 歳 (5 名) ・ 大卒以上・有配偶 ※ ・ 高卒 / 専門学校卒・有配偶 ※
非異性愛娘	・ 28～39 歳 (5 名) ・ 40 歳以上 (5 名)	・ 28～41 歳 (5 名) * ・ 35～46 歳 (4 名) *
異性愛娘の母	・ 5 名	・ 大卒以上・娘既婚 ※ ・ 大卒以上・娘未婚・離別 ※ ・ 高卒 / 専門学校卒・娘既婚 ※ ・ 高卒 / 専門学校卒・娘未婚・離別 ※
非異性愛娘の母	・ 4 名 (性的マイノリティの子をもつ親の会などの活動団体で募集)	(未調査)

参加者のリクルート、連絡調整、会場設定、モデレーターを新情報センターが担当した。同一のモデレーターが全グループの進行を担当し、研究チームの 2～3 名がディスカッションの行われるテーブルから少し離れた位置で、オブザーバーとして同席した。

(3) 個別インタビューの実施：上記の異性愛娘、非異性愛娘、異性愛娘の母、非異性愛娘の母の各グループの FGD 参加者のうち、協力を得られた人に、2017 年から 2018 年にかけて、個別にインタビューを実施した。協力者の内訳は以下のとおり。なお、日本においては研究期間内に非異性愛の娘を持つ母親の協力を得ることが難しい状況であった。今後の実施に向けて、候補者との連絡をとっているところである。

香港：異性愛娘 4 名、非異性愛娘 4 名、異性愛娘の母 4 名、非異性愛娘の母 5 名

日本：異性愛娘 4 名、非異性愛娘 5 名、異性愛娘の母 4 名、非異性愛娘の母 0 名

インタビューでは FGD での各自の発言を抜粋した上で、さらに深める質問をした。グループのディスカッションではとらえることのできなかったそれぞれの状況や気持ちを詳細に話してもらった。インタビュー時間は 90 分から 120 分であった。香港では広東語で、日本では日本語でインタビューを行った。許可を得た上でその内容を録音し、それぞれの言語での文字に起こし、後に英訳した。

4. 研究成果

本研究では日本と香港において母娘関係に関してフォーカス・グループ・ディスカッションおよび個別インタビューを行った。それらの内容を分析した結果、母娘関係について、これまでになかった知見を得ることができた。

まず、母娘関係においては母親であることや主婦であることが、母と娘の一体感・共感の基盤となっているという一般的に言われていることは、今回の聴き取りからは確認されなかった。ほとんどなかった。ただし、また、労働のジェンダー化、すなわち母も娘も女性役割を担うということは、性的指向に関わらず、母と娘の接点となっていた。非異性愛の娘の場合は、本人がレズビアンであると認識することによって、母親との間に異性愛規範的な共感の基盤はなくなるものの、それが母との親密性を妨げるとは限らず、むしろ、それを伝える・受け入れることを通じて親密性が増しているというとらえ方がされている場合もあった。

異性愛規範が強化されているメカニズムは、母親が、非異性愛娘の性的指向や、女性のパートナーを受け入れている場合にも働いていることがわかった。たとえば娘が地位のある職業についている、所得が高い、など社会経済的に達成することは、母親の誇りとなっているものの、日本においては、社会経済的な達成が、娘が異性と結婚しない、という異

性愛規範から外れていることの埋め合わせにはなっていなかった。また、娘に女性のパートナーがいることで、「娘が将来ひとりになってしまう」という不安は軽減されていたものの、母親が娘の女性パートナーを「家族」の中でどのように位置づけているかについてみると、異性愛の子の配偶者（義理の娘・息子）とは明らかに異なっていた。

特に興味深いのは、非異性愛の娘の場合、おそらく性のあり方が規範から外れていることによる母と娘の間の緊張関係ははっきりと見られたものの、それによって、母との近しさがなくなるわけではないことも浮き彫りになった。非異性愛の娘が、自ら積極的に、時には女性パートナーも巻き込んで、母とつながりを含む家族間のつながりを強めようと努力しているケースもみられた。同様の積極的な「努力」は異性愛の娘においてはみられなかった。また、非異性愛の娘の多くは、緊張関係の中にあっても母親から自分をもっとも頼りにされている存在だと認識していた。非異性愛の娘と母については、近しさや親密性に関わらず、互いの存在を気かけずにはいられない様子がうかがえた。

母と娘の関係の近しさに関わらず、娘は、母親（場合によっては両親）に対して、一種の義務感を表明していた。特に、経済状況があまりよくない親をもつ娘の場合は、異性愛であっても非異性愛であっても義務感を持っていることがわかった。さらに、娘たちが母との関係と娘としての義務をとらえる際には、ケア・世話が重要なポイントであることも浮き彫りになった。今後の分析で、家族をめぐるさまざまな規範が、個人レベルにおいてどのように作用し、どのように作り直されているのかを描写し、理論的検討を行うことが必要である。

本研究で行なったフォーカス・グループ・ディスカッションおよびインタビューに異性愛と非異性愛の娘、異性愛の娘をもつ母、非異性愛の娘をもつ母を含めたこと、非異性愛の娘・非異性愛の娘をもつ母に関しては「カミングアウト」のみに焦点を当てず、関係全般に注目したこと、母娘関係の文脈におけるパートナー・夫の役割についてもたずねたこと、そして日本と香港をフィールドに調査を進めたことによって、家族研究における成人期の母娘関係の研究領域に新たな検討課題や視点をもたらすことができた。

本研究を締めくくるにあたり、2018 年 11 月に社会学的な視点から親密性を研究している Stevi Jackson 氏（ヨーク大学教授）、香港の研究協力者 Lucetta Kam 氏と Day Wong 氏（Hong Kong Baptist University）を招聘し、国際シンポジウムを開催した。Jackson 氏は基調講演“Heteronormativity and Practices of Mother-daughter Intimacy in Hong Kong and Britain: Evaluating Change, Continuity and Variation in Personal Life”（香港と英国における、ヘテロノーマティヴィティと母娘の親密性の実践：私生活における変化、継続性、バリエーションを評価する）を行い、Wong 氏と Kam 氏は、本研究における香港での聴き取り調査に基づき“Identification and Dis-identification between Mothers and Daughters in Hong Kong”（香港の母娘関係における同一視と非同一視）を報告した。釜野が日本の聴き取り調査に基づき、“Negotiating Heteronormativity: Non-heterosexual Daughters’ Practicing Familial Intimacies”（ヘテロノーマティヴィティと折り合いをつける：非異性愛の娘による家族との親密性の実践）を報告した。このシンポジウムを通じて、新たな分析視点や課題が見いだされたことから、研究期間中には未着手であった事項も含め、今後も本研究で収集した質的データの詳細な分析を進め、その成果をまとめていく予定である。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 3 件)

Khor, Diana and Saori Kamano, 2019, “Same-sex Partners and Practices of Familial Intimacy,” *GIS Journal: The Hosei Journal of Global and Interdisciplinary Studies* V: 19-38.

Khor, Diana and Saori Kamano, 2017, “Practices of Intimacy: Mother-Daughter Relationships in Hong Kong and Japan,” *GIS Journal: The Hosei Journal of Global and Interdisciplinary Studies*, III: 1-29.

釜野さおり, コーダイアナ, 千年よしみ, 斧出節子, 2017, 「成人した娘と母が語る「母娘

関係」 フォーカス・グループ・ディスカッションの結果から」『新情報』Vol. 105, 一般社団法人新情報センター, pp. 13-18.

〔学会発表〕(計4件)

Kamano, Saori, 2018, “Negotiating Heteronormativity: Non-Heterosexual Daughters’ Practicing Familial Intimacies,” (Symposium: Practices of Familial Intimacy: A Focus on Mother-Daughter Relationships), November 10, National Institute of Population and Social Security Research (Tokyo).

Wong, Day and Lucetta Kam, 2018, “Identification and Dis-identification between Mothers and Daughters in Hong Kong,” (Symposium: Practices of Familial Intimacy: A Focus on Mother-Daughter Relationships), November 10, National Institute of Population and Social Security Research (Tokyo).

Khor, Diana and Saori Kamano, 2018, “Same-Sex Partners and Practices of Familial Research,” (RC06 and RC32 Session, Legal Recognition of Same-Sex Partnership and Kin Relations,) XIX ISA World Congress of Sociology (International Sociological Association), July 16, Metro Toronto Convention Center (Toronto).

Khor, Diana and Saori Kamano, 2016, “Practices of intimacy: Preliminary results from focus group interviews with mothers and daughters in Hong Kong and Japan,” (Session: Intersectionality and Intergenerational Family Relationship), ISA Forum (International Sociological Association), July 10, University of Vienna (Vienna).

6 . 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：釜野 さおり

ローマ字氏名：KAMANO, Saori

所属研究機関名：国立社会保障・人口問題研究所

部局名：人口動向研究部

職名：第2室長

研究者番号(8桁)：20270415

研究分担者氏名：斧出 節子

ローマ字氏名：ONODE, Setsuko

所属研究機関名：京都華頂大学

部局名：現代家政学部現代家政学科

職名：教授

研究者番号(8桁)：80269745

研究分担者氏名：千年 よしみ

ローマ字氏名：CHITOSE, Yoshimi

所属研究機関名：国立社会保障・人口問題研究所

部局名：国際関係部

職名：第1室長

研究者番号(8桁)：00344242

(2) 研究協力者

KAM, Lucetta (Hong Kong Baptist University) WONG, Day (Hong Kong Baptist University)

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。